

多賀城民報

題字は池田和京さんにご揮毫いただきました。

日本共産党
多賀城市議団
 多賀城市留ヶ谷一丁目11番23号
 代表(364)3222
 FAX(309)3910

◇弁護士による法律相談

◇申込電話で予約して下さい。
 ◇電話 364-3222
 ◇相談日 7月26日(金) 8月5日(月)
 ◇時間 午後1:30~
 ◇場所 旧阿部福商店となり塩釜県民の会事務所

◇議員による暮らしの相談

電話
 藤原益栄議員 368-6623
 070-6497-6623
 佐藤恵子議員 367-0182
 090-2027-9884
 柳原きよし議員 368-1883
 090-2605-4984
 戸津川はるみ議員 090-7528-2075

新多賀城 ツタヤ 図書館では酒も提供!?

「レストランで酒も」と『朝日』(7/12)が報道

7月11日の多賀城市長とCCC社長の会見は各紙一斉に12日の朝刊で報じられました。そのなかで5月25日にこの問題をスクープした『朝日新聞』は、新多賀城(ツタヤ)図書館では、夜、大人にお酒も提供する予定であると報じました。

各紙は12日、多賀城市とツタヤを経営するCCC(カルチュア・コンビニエンス・クラブ)との連携協定の内容として、多賀城市は多賀城駅前に移転予定の新図書館の企画設計段階から、CCCの企画提案を受けると報じました。

新図書館内にレストランとカフェをつくり酒も提供する

その内容としてCCC側も「レストランとカフェのある図書館(同社ネット配信記事)をめざす」としており、『朝日』の記事は「すでにお酒を提供する予定である」としています。

問題の『朝日』12日の記事は以下のとおりです。

「多賀城ツタヤ図書館正式発表/ポイント付与検討/レストランで酒も」の見出しで、本文では「大人には併設のレストランで夜に酒を飲めるようにする。併設のレストランには、図書

館の外に併設されるレストラン

ではなく「図書館内の...」である

ことは言ってもありません

図書館内にレストランとカフェ

をつくる予定であることは記

者会見当日、CCCが持参した

イラストでも確認することがで

きます(ネット上で見る)ことがで

きます)。

これに対し市民からは「市長は

いったい何を考えているのか」こ

れでは子どもをとりで図書館

にはやれない等の批判や不安

11日の記者会見に用意され

たイラストにより、CCCが考え

る新多賀城ツタヤ図書館の概

要も明らかになりました。

それによると、新図書館は三

階ぶち抜きで、床から天井まで

に広がるという

超高架書架を三層にし、壁いっ

ぱいにこれまでの図書館の蔵書

を並べます。そして二階フロア

はツタヤの雑誌売り場やレンタ

ル店、レストラン、カフェにする

というものです。超高架書架は

武雄市でも問題になっています

が(高さ3.9m)、上の本は何

の本が見えず、手にするのも巨

大な脚立が必要になります。利

用者の利便性はまったく顧みら

新図書館の企画・設計のCCCへの依頼はやめよ

日本共産党市議団は11日の記者会見を受け、次の見解を発表しました。

1. 図書館とは「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクレーション等に資することを目的とする施設」(図書館法第2条)であり、幼児からお年寄りまで、静かな環境のもとで安心して使用できる施設であるべきものである。ところが今、数十億円の巨費を投じつつ、菊地市長とCCCとの間で図書館から大きく逸脱する施設が造られようとしている。
2. その一つは、図書館の中にツタヤの営業フロアばかりか、カフェ、レストランも設置され、お酒まで提供される予定である。また利用者の利便や安全性は軽んじられ、超高架書架は武雄市のそれをさらにエスカレートさせ、三層にしようとしている。これはもはや図書館とは言い難く、図書館の蔵書に囲まれた書店とレストランというべきものである。
3. いま問題だらけのこの構想が、議会や市民には真相を隠しつつ、「所管は教育委員会」と検討を委ねながらさっさと企画設計をCCCに委ねるなど、教育委員会をも愚弄し、武雄市以外の図書館を見たことがない市長により独断的に強行されようとしている。もし強行するならば、取り返しのつかない施設を造ることになると同時に、市と市民の関係もくずれ、市長も人間的信頼を失うなど大きな代償をはらう結果となることを指摘せざるを得ない。
4. 日本共産党多賀城市議団は心ある市民のみならず、新図書館のCCCへの企画設計の依頼を中止するよう強く求めるとともに、問題の解明に引き続き奮闘するものである。

2013年7月12日 日本共産党多賀城市議団

東風城目

14日、俳人でもある阿部五二一議員の叙勲祝賀会があった。氏はよく正岡子規の句碑建立を提起されていた。本年7月は与謝野鉄幹と子規の多賀城訪問百二十周年。真に氏に相応しい時期の会であった▼鉄幹は15日の午後上野駅で乗車、翌日午前2時に仙台駅に到着、南山閣を宿とした。宿を出、岩切駅まで列車を利用、その後徒歩で多賀城碑、末の松山、野田の玉川をめぐり、勝面楼に泊まったのは20日のこと▼他方子規が上野駅で車中の人となったのは19日。宇都宮、白河、郡山、本宮、二本松、福島、岩沼などで下車、名所を訪ね歩いたため、仙台到着は27日。鉄幹が翌朝到着したのに対し実に8日間も要した▼子規が多賀城を訪ねたのは30日。29日、仙台駅から塩釜停車場まで列車で移動。この日塩釜神社、松島を観、宿の観月楼に入った。30日は雄島、富山観音を詣でたのち、船で塩釜に戻り、野田の玉川、多賀城碑を巡った▼『多賀城市史』には多賀城来訪当日のみの紀行文が収録されておりその前後の足取りは解らない。解ったのは青森県立図書館が当時の新聞『日本』を保存してくれていたお蔭。もちろん探してくれたのは市立図書館の司書さんであった。